
姫とナイト

コルクスタンド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

姫とナイト

【Nコード】

N1480G

【作者名】

コルクスタンド

【あらすじ】

「志保さんが路地裏で襲われてる」と蘭に知らされた新一は……
…。 《作者の知り合いの閲覧は禁じます。》

「新一っ！志保さんが路地裏で、チンピラに絡まれて連れて行かれ
そうなの。私はなんとか逃げて来られたんだけど…。」

「本当か！？蘭、案内してくれ。」

「分かった。」

俺と蘭は急いでその路地裏に向かった。

俺は、志保がチンピラに絡まれているところを想像しながら、路地
裏に飛び込んだ。

「志保！大丈夫か！？つて、え？」

そこには、見事にのされたチンピラと、拳をさする志保がいた。

「「え、これは、どういうこと」「ですか？」

「えーと。通りすがりの人が助けてくれたのよ。本当よ？」

「なーんだ、そうよね〜。だって、志保さん腕だって細いしね〜。」

いや、蘭納得すんのかよ。明らかに不自然じゃないかよ。と思いつ
つ、俺も同調しておく。

「何だ、そうだったのかよ。」

帰り道。

「志保、お前…」

「さっきは蘭さんが居たから、言わなかったけど、研究者と言えども、私だって黒の組織の一人よ？あんなチンピラに負ける分けないでしょ。」

でも、俺は知っていた。

志保の肩が少しだが、震えていたことを。

「志保、無理するなよ。怖い時は怖いって言えばいいんだから。俺を頼ってくれよ。」

「し、新一。私怖かった、怖かったのぉ。」

新一は何も言わずに志保の背中を叩いてやる。

「私、わた、し…。うっうっうっあぁ〜。」

「分かってる、分かってるから。」

「グスッ、ヒクッ。し、新しい、ちい。わた、わたし…!」

新一は志保に、柔らかく口付けし、言った。

「大丈夫。大丈夫だから。だから、もう何も言っな。」

志保は、うん。と頷いて、新一の腕を掴み、今度は自分からキスをした。

「今度何かあったら、あなたが守ってくれるのよね？ナイト（騎士）さん？」

「ああ。守ってやるよ。お姫さま。」

(後書き)

もうちょい甘くしたかったです。精進せねば。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1480g/>

姫とナイト

2010年10月28日08時10分発行